

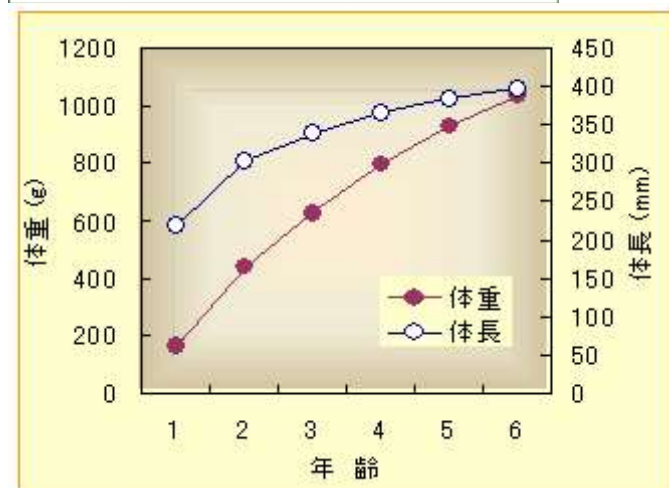
ホッケ *Pleurogrammus azonus*

北海道南+根室海
峡+北方四島 担当：北海道区水産研究所



生物学的特性

- 寿命： 不明
- 成熟開始年齢： 1歳の終わり頃（満2歳直前）
- 産卵期・産卵場： 日高沖や根室海峡に形成
知床半島先端水域における産卵期は9月中～10月下旬
- 索餌期・索餌場： 正確な索餌場は不明
漁場域は、襟裳以西、道東、根室海峡、北方四島周辺水域の水深
200m以浅に形成
- 食性： 仔魚期には主にカイアシ類、表層回遊期には主にヨコエビ類、未
成魚期には底棲性のヨコエビ類を多く捕食
岩床周辺で定着生活に移行後は、様々な種類の動物を捕食
- 捕食者： 不明

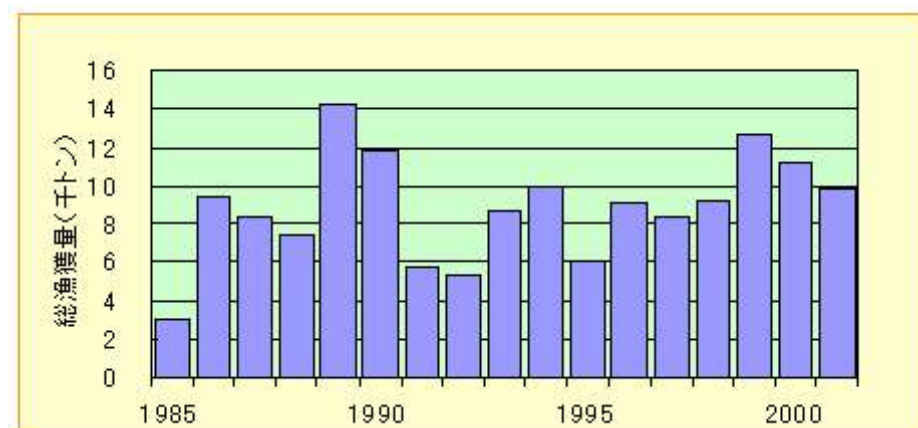


漁業の特徴

ホッケは、北海道太平洋岸における沿岸および沖合底びき漁業の主要漁獲対象資源の一つである。総漁獲量の8～9割は沿岸漁業による。特に根室海峡での漁獲量が多く、刺網によって当該海域における総漁獲量の6～7割が漁獲されている。主漁期は春の索餌期（定置網主体、0～1歳）と秋の産卵期（刺し網主体、1～2歳）である。いずれも2歳魚以下の未成魚が主体である。

漁獲の動向

1995年以降、漁獲量は増加傾向を示しており、1999年には12,000トン強に達した。その後は若干減少し、2001年の漁獲量は9,800トンであった。



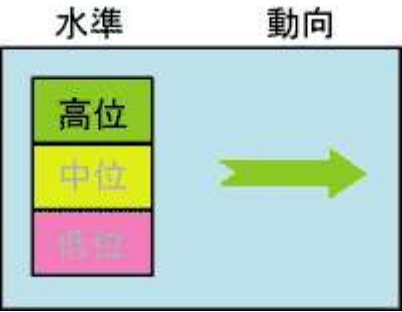
資源評価法

本海域におけるホッケの漁獲物は、そのほとんどが1歳と2歳で、年齢幅がせまく、コホート解析による資源量の推定には適切でない。また、漁獲量の大半は根室海峡の刺網漁業によるものであるが、この漁業種については漁獲量以外の資源量の指標（CPUEなど）

を得ることが困難である。さらにこの漁場はロシア水域と接しており、ロシア側におけるホッケの分布量の情報が入手できないため、正確な資源評価は困難である。そこで、近年の総漁獲量の変化から資源動向を判断した。

資源状態

本海域における過去17年分（1985～2001年）の漁獲量の推移から資源水準を、また過去5年間（1997～2001年）の漁獲量の推移から資源動向を判断した。2001年の漁獲量は9,786トンで、わずかに10,000トンを下回ったものの、未だ1999年以降の高位水準の中にあると見なし、2001年の資源水準は高位と判断した。また1997年から2001年までの5年間における漁獲量の推移を見ると、1999年を頂点としてそれ以降減少傾向にはあるものの、5年間を通じて見れば横ばいであると判断した。



管理方策

漁獲量の変動が資源動向を反映すると仮定した場合、1996年以降、資源豊度は好適な状況にあるものと判断された。現在の資源水準を今後も維持するためには、漁獲圧を近年の水準に保つことが有効である。そこで、ABClimit は過去5年間（1997～2001年）の平均漁獲量、ABCtargetはABClimitに0.8を掛けて算定した。

	管理基準	A B C （トン）	漁獲割合	F 値
A B C limit	Cave5-yr	9,700	－	－
A B C target	0.8 ABClimit	7,800	－	－

資源評価のまとめ

- 本海域の漁獲物は、ほとんどが1歳と2歳で、年齢幅がせまく、コホート解析が困難
- 漁獲量の大半は刺網漁業によるものでCPUEを得ることが困難であるため、近年の漁獲量から資源評価を実施
- 過去17年の漁獲量の推移から資源水準を、また過去5年間の漁獲量の推移から資源動向を判断

管理方策のまとめ

- 漁獲量の変動が資源動向を反映すると仮定
- 1996年以降、資源豊度は好適な状況
- 現在の資源水準を維持するため漁獲圧を近年の水準に保つ